

口語詩句 7 月総評 龍 秀美

※事情により、龍先生は今月は選句のみとなります。(事務局)

ろっこつのかたち
に
鳥をまもるとき
けやきの喉はよくしなる 弓

さいう 石川県

巧いことやって麒麟の右に出る

松下 誠一 東京都

国変へるためと
ばつたが跳ねてゐる

山本先生 東京都

夏の巷(まち)他人(ひと)を逸
らすに故郷(くに)訛り

田崎森太 神奈川県

フォルダーの家族写真の少なさを
見るとき 3 は素数と分かる

辻村陽翔 北海道

熊、マジか
熊、火事、マジか
熊、マジか
熊、熊、マジか
市からのメール

和泉次郎 新潟県

給食のトレーを運ぶ手の感じ
熱のわたしを連れてく朝は

汐見りら 東京都

真夜中を振り払おうと
冷蔵庫を開けて月の光をめくる

常田 瑛子 山口県

熱を持つ嫌われ者になりなさい

蝸牛 奈良県

夕闇が来る前にさらしてよ喉

桜庭 紀子 和歌山県

体軀に囚われて
震えるたびに解けてゆく
青い鬼灯として

生きてゆきたい

金光 舞 埼玉県

あやまちはあやまちのまま
花柘榴
みるみる象の舌をあふれて

石村 まい 兵庫県

水の秋
絵を見ている
むき出しの器官をぬらしつづけて
人は

早瀬はづき 大阪府

どうやって伝記にならず
生き延びよう

互井宇宙論 埼玉県

太平洋側の愛され方だろう

おかもと 石川県

このような
カーブを人は曲がれずに
田んぼに刺さっていくんだね、夜

にわ 栃木県

所与のものではないうすだいい

綿貫 文 東京都

エスカレーターの
手すりが濡れていて
わたしは誰のものでもないが

芒川良 東京都